

(別記様式)

令和2年度 府立北桑田高等学校 美山分校 学校経営計画 (スクールマネジメントプラン)

(実施段階)

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>1 時勢の変化と教育に対する社会的ニーズの推移に対応し、 専門教科・普通教科の学習を通して、基礎学力及び進路目標に応じた学力・能力を身につける。</p> <p>2 働きながら学ぶことを基本とし、規則正しい生活習慣と生きる力の充実を図る。</p> <p>3 特別活動等を通して地域とかかわり、地域後継者の育成と地域文化を支える豊かな心の育成を図る。</p>	<p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着に重点を置いた授業展開ができた。 ・多様な生徒の個々に応じた学力の定着と慎重を図るため、家庭との連携を密に行い、支援・指導に努めることができた。 ・学び直し学習、SSTの充実が図れた。 ・実践を重視した専門学科の教育の充実を図り、地域と連携した取組につなげることができた。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々に応じた学習支援の充実を図る。 ・日常的な学習指導の中でSSTの充実を一層図る。 ・働きながら学ぶという目標のもと、就労を奨励する。 ・美山分校の教育内容の広報活動の充実を図る。 ・地域の中で魅力を発揮できるよう、広報・情報発信を含め地域と連携した取組を行う。 	<p>1 教材や指導方法の工夫改善により、基礎・基本の充実を図る。</p> <p>2 農業科と家政科の専門学科の特性を生かした取組を充実させるとともに、両学科が連携した取組の推進にも積極的に取り組む。</p> <p>3 個々の教育的ニーズに応じた適切な教育的支援を行い、希望進路実現を図る。</p> <p>4 働きながら学ぶという目標のもと、生徒の就労支援を積極的に行う。</p> <p>5 希望生徒全員の就労を実現し、定時制教育を充実させる。</p> <p>6 新学習指導要領や学校の特色化に対応した教育課程を作成する。</p> <p>7 広報活動を積極的に行い、地域と連携し、外から見える学校づくりを進める。</p> <p>8 地域との連携を深め、地域の力を活用した学校づくりを推進する。</p> <p>9 安心安全な学校づくりを進める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
組織・運営	教職員の資質・能力の向上を図る	校内外での研修の機会を積極的に活用し、自己の課題を明確にするとともに教育力向上に努める。	A	B	・校内における幅広い分野の教職員研修を行うとともに校外の研修機会を紹介することができた。 ・教職員間の情報共有と連携を密にすることに努めた。十分ではない部分もあったが、その都度、反省を生かした振り返りを行うことができた。 ・少人数の教職員集団であり、行事等において負担が集中することがあり、今後の検討課題である。 ・経験値で行事等の運営を行っている面があるため、組織的な運営ができるよう整理することが必要である。
		教育実践の成果と課題を日常的に交流し、指導の充実につなげる。	B		
		身近な物の整理整頓から安全確保の推進につなげる。	B		
組織的な指導体制の確立する	情報共有を積極的に行い、分掌間や担当者間、管理職等との日常的、継続的な連携を大切にする。	全ての教育活動において、組織的・計画的な実践を推進する。	A	A	
		全ての教育活動において、組織的・計画的な実践を推進する。	B		
教育課程	学校の特色を生かした教育課程の編成	学科に応じた特色ある教育課程を編成する。	A	A	・農業科と家政科の特色が生かせる教育課程を編成した。 ・低学年において基礎的科目を設定し基礎学力の定着を図った。 ・新学習指導要領に関する最新の情報を入手し対応した。 ・高学年においての応用科目の充実を可能にする工夫が必要である。
		生徒の基礎学力の定着を可能にする教育課程を編成する。	A		
		生徒の進路実現に向けた教育課程を編成する。	B		
	新学習指導要領に則した教育課程の編成	新学習指導要領に関わって、情報を入手し、その主旨を理解した上で効果的に導入できるように努める。	A	A	
新学習指導要領に対応した教育課程を編成する。		A			
教科指導	各教科の目標を明確にして、計画的な指導を実践する。	シラバスにおいて年間計画を提示し、それに基づいた計画的な指導を行う。	A	A	・年度当初にシラバスを作成し、学習の計画的な指導を可能にした。 ・授業のみならず、独自の取り組みである「チャレンジ」の活用もしながら基礎学力の定着を図った。 ・公開授業の取り組みが不十分であった。
		授業公開を通して課題を明確にし、授業改善を図る。	B		
	個々の生徒の学力を充実させる。	個々の生徒の学力、理解の程度を把握しつつ、学期ごとに年間指導計画の点検と見直しを行う。	A	A	
		学習習慣の確立や基礎事項の反復等、基礎学力の定着を可能にする工夫をする。	A		
特別活動	計画的で充実したホームルーム活動を実施する	4年間を見通したホームルーム活動の指導計画を作成する。	A	A	・年間を通じて、ホームルーム活動指導計画に沿ったホームルーム活動を行うことができた。また、状況に応じて改善や創意工夫を重ねながら取り組むことができた。 ・文化祭では、コロナ禍で内容の精査をしながら取り組んだ。生徒会幹部は達成感を味わえる活動となった。 ・今後、さらに生徒の自主性を高めていくために、様々な活動を体験させたい。
		学年間の連携を密にし、ホームルーム経営の改善・工夫に努める。	A		
		各学年ごとに、適切なホームルーム内容になるよう努める。	B		
	創意工夫した学校行事に取り組む	文化祭の成功に向け、生徒会を中心に全校体制の取組とできるよう努める。	B	B	
		様々な学校行事の主役は生徒であるという認識を基本とした指導を行う。	B		
自主的な生徒会活動を目指す	生徒会活動を通して、何事にも自主的に取り組む力を付ける。	B	B		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
進路指導	「働きながら学ぶ」を実現できるよう指導する	就労の実態を把握し、不就労生徒への援助・指導を継続して行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で仕事が減った事業所もあったと思われるが、仕事がなくなった生徒はおらず事業所の配慮に感謝したい。 ・学校就職を希望した生徒は第1希望の就職先に決定することができた。 ・支援を要する生徒の進路決定方法に、就業支援センターに協力を仰ぐという新しい流れができた。
		就労先との連携を密にし、生徒の支援につなげる。	B		
		新しい就労先の開拓に努める。	B		
	自己の能力と適性を把握して希望進路の実現を目指す	生徒個々に対応した進路指導を行い、卒業予定者全員の進路決定を目指す。	A	A	
		支援を要する生徒の進路について関係諸機関と連携して進める。	A		
		3年生の進路意識高揚に努める。	B		
生徒指導	問題事象の発生を未然に防いだり、早期に発見ができる体制を構築する。	アンケートの実施や日常的な日記りを心がけ、生徒の状況把握に努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の見守り活動を行う中で、教職員からもコミュニケーションをとることで、相談しやすい雰囲気を作ることができ、事象の早期発見・早期解決につながった。 ・生徒同士のコミュニケーションについて、不適切な言葉があった時には、その都度指導をした。自分の気持ちを表現しにくいことや、相手の気持ちを理解することが難しいことへの指導を深めていきたい。 ・日常的に言葉づかいや身だしなみを整える指導を行うことで、意識を高めることができた。 ・学校行事や実習などを通して、さまざまな活動や体験をさせることができた。
		各分掌や教職員と効果的な連携を行い、問題事象の予防や早期発見に努める。	A		
		地域や関係機関と連携し、問題事象に適切に対応するよう努める。	A		
	信頼、思いやりに基づく人間関係の育成に努力する。	相手を思いやる気持ちを育み、信頼に基づく人間関係を築くように指導する。	B	A	
		いじめや他人を傷つける言動は、絶対に許さないという強い姿勢で指導する。	A		
		あいさつの励行や適切な言葉づかい、身だしなみを整えることができるよう指導する。	A		
文化的な素養を高めるような行事等を通して、豊かな人間性を育む。	B	B			
人権教育	互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重する感性と、主体的に考え、解決しようとする態度・能力を育成する。	生徒の社会的自立に向けた支援のための学習を計画的、組織的に実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年における人権学習が散発的なものになった。 ・全校実施の人権学習が講演という形で実施できた。 ・口丹ブロック会議（レポート交流）への参加によって、他校との情報交換ができ人権学習に活かされた。
		全ての生徒に人権問題についての理解や認識する力をつけ、解決に向けた実践的態度を育てる学習を行う。	B		
		人権教育の科学的認識を系統的に身につけるため、教科学習の指導を充実させる。	B		
		人権教育について、教職員の指導力を高める取り組みを行う。	B		
研究・研修	教科指導・生徒指導の資質向上に努める。	学校の課題に合わせた校内研修を行い、指導力の向上を目指す。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を年間で六回実施し、指導力を向上させた。 ・外部の公開授業や各種研修会に参加をした。 ・定通研は中止されたが、職員個々で自己研鑽に努めた。
		定通研の成功に尽力し、教職員の資質向上に貢献する。	B		
		外部で行われる公開授業や各種研修会へ、積極的に参加する。	B		
健康・安全教育	自らの健康管理能力を高める課題を持つ生徒の支援を図る	生徒一人一人に時間をかけて丁寧に対応する中で、自分の言葉で自分の生活やからだについて語れる力をつける。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室に入室してこない生徒とも個別に話す時間を設け、自身の振り返りや困り感などについて知ることができた。 ・たんば地域支援センターと連携し事例研究や研修等を行った。その中で多くの助言をいただき生徒理解や生徒支援につなげることができた。
		生徒の特性を理解し、適切な支援が出来るように関係機関等との連携を大切ににする。	B		
施設・設備管理	施設・設備の点検を行い、安全管理を徹底する	一般施設・設備及び防災施設・設備の日常点検・定期点検を実施する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設、設備の点検を丁寧に言い、必要な部分の補修や改修を適切に行った。 ・新型コロナウイルスの感染予防のため、教育環境を整えることに努めた。
		防災教育を計画的に進める。	B		
		教育環境の改善と安全管理の徹底を図る。	B		
農場部	農業に関する専門知識や技術の学習を通して、生きる力を身につける	実習を中心とした体験的、実践的な授業を展開する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ下で対応を慎重に検討して販売会を予定通り実施することができた。 ・それぞれの学年で取組のまとめをすることができた。 ・両学科合同の「米作りプロジェクト」を成功させ、文化祭の取組として収穫感謝祭も実施することができた。 ・1学期当初授業ができなかったが、栽培管理の遅れや売払い額の減額は生じなかった。
		チームワーク・コミュニケーション・プレゼンテーション力の向上をはかる。	B		
		学年・生徒ごとの実態に応じた学習内容を検討し、指導方法を工夫する。	A		
	校内外で連携を推進し、地域に貢献する意欲と能力を育む	家政科との連携を強化し、学校全体の活動を活性化する。	A	A	
		農業クラブ活動を活発なものにする。	B		
		農場生産物の販売を積極的に行い、地位からの評価向上に努める。	A		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
家政科口	家庭生活に関する知識・技術の習得と主体的・実践的な態度を養う	生徒の実態を的確に把握し、学習効果に結びつく適切な学習教材の研究・開発をする。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に合わせ、ポイントを絞って繰り返し学習できるようにし、学習内容が定着しやすいように工夫した。 ・コロナ禍ではあるが、できる限り専門家の指導を受けられる機会を設定し、たくさんの体験活動ができた。 ・農業科との連携により、育てた野菜を使って調理する機会を持つことができた。 ・コロナ禍で園や福祉施設での実習ができなかったが、学校で作った映像や作品を届けることで間接的な交流はできた。 ・課題研究では、自ら考え、深めていくという点で難しさがあり、進め方に工夫が必要である。
		外部講師による直接指導等を活用し、より専門的な学びの機会を設定する。	A		
		個々の生徒の実態に合わせた指導法を研究し、より深い学びにつなげ、生徒が達成感を得られるようにする。	A		
	学習したことを活かし、自分や家族、地域のより良い暮らしにつなげる意識を育てる	農業科との連携、保育所や地域包括センターとの交流等の機会を設定し、学びを家族や地域に向けて発信できるようにする。	B	B	
4年間の学びの集大成として、課題研究の授業において、各自が決めたテーマをより深く研究し発表する場を持つ。	B				
第1学年	高校生としての自覚を持たせることを重点とし、基本的な生活習慣・態度・マナー・基礎学力の定着を目指す	授業に集中できるように学習環境を整え、基本的学習習慣を身につけるとともに、基礎的な学力の定着を目指す。	A	B	
		自ら考え、自分の責任で行動をするという意識を持たせるように努める。	A		
		他人を思いやる気持ちを育む学級運営をする。	B		
		HR活動・学校行事に積極的に参加できるように働きかける。	B		
第2学年	目標に向かって、見通しを持って行動できる力を養う	主体的に行動し、自ら学ぶ態度を育てる。	B	B	
		他人を思いやる気持ちを育み、周囲と協力して物事に取り組む機会を設ける。	B		
	人との関わりを通して、互いに認め合い、協力する態度の育成を目指す	HR活動・学校行事等への積極的な参加に繋がる指導を行う。	A		
		それぞれの学習目標に向かって見通しを持って学習できるように指導する。	B		
第3学年	集団と個人を理解して行動する。目標設定と目標達成を意識させて行動させる。	集団としての目標と自分の目標を設定し、目標を達成できるよう見通しを持って行動できるように指導する。	A	A	
		HR活動・学校行事に積極的に取り組ませる。	B		
		集団と自己のバランスを考えて行動できるように指導する。	B		
	卒業後の希望進路実現を見据え、自己理解を深めるとともに自律的な行動ができるようにする	自分の興味関心の方向性や能力を理解し、進路選択につながるように指導する。	B		
		集団の中での自らの行動を考えさせ、自律につながるように指導する。	A		
将来に明確な指針を持てるように社会について学ぶ機会を持たせる。	A				
第4学年部	自発的に学ぶ姿勢を持ち、それぞれの特性、興味、関心に応じた進路実現を目指す	自分を見つめ、自分の能力に応じた目標を定め、進路実現できるように指導する。	A	B	
		それぞれが希望進路を実現できるように、社会に出ることを意識して自発的に学ぶ姿勢を持つように指導する。	B		
		進学先や就職先について自ら調べることでできるスキルを身につけられるよう助言する。	A		
	人との関わりや学びを通して、よりよい人格の形成を目指す	社会人としてのルールやマナーを身につけ、規範意識を確立して自律の精神を大切にできるよう指導する。	B		
		最高学年として、後輩を適切に導くことのできる広い視野を持てるよう助言する。	B		

(別記様式)

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
国語科□	生徒一人ひとりの実態に応じた課題を設定し、言葉の使用者としての基礎学力の向上を図る	個々の生徒の実態に応じた学習内容を検討し、指導方法の工夫をする。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月新しい図書を提供するとともに、図書館だよりを発行することができた。 ・授業で使う学習プリントを工夫して、生徒が自ら取り組むように促すことができた。 ・今年は感染症対策ということもあり、「話す」場を持つことがあまりできなかったため、それ以外での意見発表の場を増やすことを工夫したい。 ・図書館は常時開館したが、貸出冊数はそれほど増えなかったため今後の課題とする。
		様々な文章を通して、話す・聞く・読む・書く学習をバランス良く行う。	A			
		学習に遅れが生じる生徒には、個に応じた補充を行う。	B			
		様々な文章に触れられるように、読書習慣の定着を図る取り組みをする。	A			
数学科□	生徒一人ひとりの学びや考え方を尊重しながら、基礎学力の向上を目指す。	各単元で必要とされる基礎知識を復習してから授業に入るようにする。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が高校数学を理解し易いように、学習内容をかみ砕いて伝え、予備知識を補強した上で授業に入るようにした。 ・理解不十分な生徒に対しては個々の弱点等を把握し効果的な指導を心掛けた。その結果、欠点を取る生徒は出なかった。
		1年生は中学校との接続を意識した授業を行う。	B			
		考える時間や演習を多く設け、生徒が受け身にならないよう配慮する。	B			
		理解が不十分な生徒には補充指導を行う等、個々に応じて工夫する。	B			
保健体育科	生涯を通じて、継続的に運動できる能力や自らの健康を管理・改善していく資質を育てるとともに、運動技能の向上、健全な心身の発達を目指す	運動に対する知識理解を深めるとともに、運動技能を向上させる。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・持久走では、練習を重ねることが自信につながり、耐久走で多くの生徒が達成感を味わうことができた。 ・個々の力量の違いなどを考慮し、ルールなどを一部見直しながら活動を行うなどの工夫を行った。 ・保健教科では、自分達で調べ学習・発表することで、普段の授業よりも理解を深められた。
		運動を通して、公正、協力、責任などの態度を育てる。	B			
		保健教科を通して、健康で安全な生活を送るための基盤を養う。	A			
		保健教科を通して、環境問題・健康問題について思考・判断できる教養を身に付ける。	A			
		レポート作成を課題として環境問題や健康にに対する知識理解を深めるとともに、他者に伝える力を養う。	A			
英語科□	中学校での学習を土台にしなが、多様な言語活動の有機的な関連を図った指導を実施し、実践的コミュニケーション能力を育成する。	聴く、読む、話す、書くという四技能をバランスよく学習させる。	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を母国語とする教員と連携して行うチームティーチングを中心にして、四技能の学習の充実や学国の文化に対する興味関心を高める指導を計画的に実施した。 ・基礎事項の定着を図るため教材の工夫をした。 ・応用力の伸長を可能にする指導が不十分であった。
		言語だけでなく、外国の文化についても理解を深める。	A			
		英語指導助手と連携しながら、充実した英語学習を進める。	A			
		必修の授業では、基礎力の定着に焦点を当てる。	A			
		選択の授業では、進路実現も視野に入れ、応用力の伸長を図る。	B			
家庭・地域社会との連携	教育目標の達成を目指して、育友会・各種関係機関等との連携、協力を進める	様々な機会や方法を活用し、家庭との丁寧な連携に努める。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページによる広報を積極的に行うように努めた。 ・新型コロナウイルスの関係で、授業や行事を通じた地域との連携は、感染予防を最優先して行ったが、例年に比べ十分に行うことができなかった。 ・育友会の行事は、感染防止対策を取りながら、規模を縮小して実施した。
		地域の方々や関係諸機関等と連携し、地域に貢献する活動を教育活動に取り入れる。	B			
		美山分校の活動が学校の外から見えるような広報活動を工夫する。	A			
		育友会事業などをはじめとする社会教育を支援し充実させる。	B			
学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や身だしなみ等、社会的マナーを十分に身に付けられるような指導を充実させてほしい。 ・様々な悩みを持っている生徒がいると思うので、気軽に相談できる体制や雰囲気づくりを今以上にしてほしい。 ・学校の様子がもっと見えるような方法を検討し、実行してほしいと思う。 ・より充実した学習環境を整備してほしい。 					
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の活動が見えるよう、ホームページ等による広報をより充実させる。 ・多様な生徒が在籍することに対応し、一人ひとりの進路目標が実現できるよう、個に応じた指導内容の充実に努める。 ・生徒が相談しやすい環境を作れるよう教職員集団の意識を高める。 ・安心、安全な学習環境の整備、充実に努める。 					